

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500187		
法人名	株式会社kitahamanokaze		
事業所名	グループホームタナギ		
所在地	秋田県由利本荘市岩城内道川字水呑場28-30		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 食事は利用者の要望を取り入れた献立で、手作りに拘り、レベルアップを図る</p> <p>2. 明るく笑顔が絶えない環境づくり</p> <p>3. 看護師が在住し健康管理や医療面は不安なく過ごせる</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	令和5年12月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染症(コロナ・インフルエンザ)予防のため、外出や面会は現在も自由にできない状況ですが、毎朝の申し送り時には事業所の代表も同席し、現状や思いを話し合い共有されています。毎日長い廊下を利用者それぞれのペースで歩くことを日課とし、足腰の筋力低下予防につながるよう支援されています。リビングでは職員と利用者がテーブルを囲み、和気藹々とした雰囲気の中で笑い声が絶えず過ごしているのが印象的でした。スライドができる浴槽を使用している事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が築けている (参考項目:21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 ホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者が増えている (参考項目:21)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人々の心に触れ、人々の役に立ち②創意工夫して地域に潤いを発生させ③共に成長し分かち合う④お互いの自由を尊重し合う⑤それが楽しい人生になる	朝のミーティングにはいつも代表が出席され、理念を掘り下げて、確認しながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の魚屋さんから魚を購入し、メニューに取り入れたり、2か月に1回近所の理髪店に出張してもらい散髪してもらっている	利用者との交流は制限あるものの、推進会議では自治会長さんから地域の情報提供があったり、また地域の避難訓練に参加したりして交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近所を散歩したり、受診時地域の方と会話したりしている、また、近所の方が認知症の方の対応を聞きに来た時はアドバイスしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、利用者の状況やサービスなどについて話し合い、特に災害時の対応などの意見をサービス向上に活かしている	事前に議題を決めておき、会議では活発に意見交換され、サービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議に参加し、地域の事業所の実情や情報を得たり、事例発表時に意見交換を行ない、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉事務所には利用者の状況をファックスで報告したり、グループホーム協議会では、地域の情報などを交換し、協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月ごとに身体拘束や高齢者虐待防止に対する委員会を開催し、話し合った内容を職員全員で共有している。また、内部研修を行い身体拘束や虐待の具体的な内容を理解し、身体拘束や虐待防止に努めている	全職員は無拘束の弊害を認識し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員が自立支援事業や成年後見制度について理解し、認知症で自分から要望や訴えが出来ない利用者に対して適切な関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者と家族の方に契約内容や解約について説明しており、不安や疑問がある時は後日に電話で対応し、理解、納得出来るよう努めている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族の方が毎月支払いに来た時や面会に来た時に要望を伺ったり、ホームページに施設の行事や情報を公開している。また、意見や苦情にも適切に対応し、運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も面会は窓越で行われています。家族とは電話などでも要望や意見を聞きながら、運営にも反映されています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	朝の申し送り時に会社の方向性について話し合いを持ち、職員からの提案や意見を聞き、処遇改善に反映させている	日常的に密にコミュニケーションをとり、また管理者には個人的な相談などもあります。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケア会議などに参加し同業者と交流し情報交換する事でサービス向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方が入居時に不安に思っていたり、困っている事を聞き、何度も声掛けたり、促したり少しでも安心できるよう努めている		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の方が入居を受け入れず家族が困っている時は利用者と話し、入居の必要性を説明したり、利用者が安心できるよう馴染みの物を持って来てもらったり、要望を聞き入れ不安なく入居できるよう努めている		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に役割として、カーテンの開閉や洗濯畳み、食器拭きなどを行っている		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が歩行時ふらつきがあり歩行器やポータブルトイレを促すがなかなか納得しない時に家族から促してもらったりして、家族と共に本人を支えている		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの方から電話や面会があった時は取り次いだり、利用者の方が電話して欲しいと希望された時は電話できるよう支援している	定期的に馴染みの床屋さんが来てくれたり、法要の為に、自宅付近に外出したり、年賀状や手紙などで連絡しながら、関係が途切れないように支援されています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者で仲の良い人、悪い人を把握し、食事のテーブルの配置を考えたり、人と交流が不得意な利用者にはレクレーション時に声掛けし一緒にレクレーションを行うよう支援に努めている		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでサービス利用終了した際は、経過を電話で聞いたり、家族から相談があった時はアドバイスしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく利用者の暮らし方、意向、心身状態を把握し、要望に応えられるよう検討している。床に布団を敷いたり、ソファを置いたりなど	代表や職員は日常の関わりの中から、それとなく思いや意向を聞き出し、内容を共有しながら本人本位に支援しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーから利用者を紹介された時に情報を聞いたり、フェースシートをFAXしてもらったり、家族からも情報を貰い、生活環境、生きがいに繋がる事を把握するよう努めている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎日ではないが申し送り時にケアマネジャーが参加し、利用者の問題点や悩んでいる事をカンファレンスを行ない、介護計画を作成している	介護計画作成担当者は一人ひとりの日常の状態を把握、職員の意見をも聞きながら利用者主体の暮らしを反映した介護計画が作成されています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護計画には日々の様子、ケア内容、気づきを記載している、問題があればカンファレンスを行ない介護計画の見直ししており、申し送りや連絡ノートで職員間で情報を共有している		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春は近所の山に花見に出掛け、夏は施設から見える洋上花火を楽しんだり、秋はドライブに出掛け紅葉を楽しんでいる		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していたかかりつけ医を希望する方はそのまま継続してもらっているが、施設の協力医やかかりつけ薬局でも問題ない方は協力医、薬局をお願いしており、必要時は総合病院に受診している。また、必要時は協力歯科に受診又は往診して貰っている	管理者は看護師でもあり、受診時には日常の状態を適切に伝え、受診情報は共有しながら、支援されています。家族には随時、また毎月のお便りなどで報告しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化やバイタル異常時は看護師に相談し指示を仰いだり、必要時は受診しており、結果を家族に報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院の看護師や地域連携室に電話し病状を聞いたり、早期に退院できるよう情報交換したり、相談している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合や終末期について説明をしており、対応困難な場合は主治医やケアマネジャー、家族と連携を図っている。また、看取り介護を希望する方は指針や同意書について説明し、医師、看護師、介護職員などのチームで支援している	事業所の看取り指針を全職員が認識し、関係者と連携しながら取り組んでいます。過去には看取りの事例もあります。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の研修を行い、応急処置や初期対応について確認している。夜間の急変時は看護師が駆けつけている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地震や津波、台風などの避難方法について話し合っている。夜間を想定した避難訓練も行なっており、避難誘導の方法や地域の方にも協力をお願いしている	火災・地震を想定し、避難・通報訓練を実施、消火器の使用方法など消防署職員の協力を得て実施。終了時には署員の講評もあり、課題を話し合いながら災害に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職業柄押さえつけるような発言をする利用者や水商売をしていた利用者で男性好きで卑猥なことを話す利用者にもその人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけで対応している	一人ひとりの経歴や性格などを尊重した声かけを重視しながら、自分に例え尊厳を大切にしたい支援が実施されています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ衣類の交換を家族の方をお願いしている。また、2か月に1回理髪店に出張して貰い散髪している		
	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞いてメニュー作成したり、食事の準備として野菜の皮むきや盛り付けを手伝ってもらっている。また、食器洗いや食器拭きなども手伝ってもらっている	職員が献立を作り、食材を仕入れに利用者も一緒に行くこともありました。毎日職員が試食し意見交換、行事食や皆でおやつをつくることもあり食を楽しんでいます。調査当日は代表が同席し談笑しながら食事されていました。	
1		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量や水分の量のチェックしており、水分の少ない利用者にはゼリーやプリンなど摂取してもらっている。むせ込みがある利用者には刻み食やペースト食に変更したり、水分はトロミ剤を使用している		
2		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後マウスケアを促しており、自力で出来ない利用者は介助している。入れ歯の利用者は毎日入れ歯洗浄を促し出来ない利用者は介助している		
3	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食事前にトイレを促したり、リハビリパンツの利用者で、失禁が多い人は尿取りパットを併用している	一人ひとりの行動を見ながらトイレ誘導、身体機能に応じた排泄用品を使用し、少しでも改善できるように支援しています。	
4		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックしており、排便の無い利用者には水分や寒天、ヨーグルトを摂取させたり、運動(歩行練習)を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	介助を必要としない利用者には希望を聞きながら入浴してもらっている。介助が必要な利用者は複数の職員がいる日中に入浴して貰い、週3回位入浴している	スライドできる浴槽を適切に使用して、一人ひとりの要望や身体機能に応じて、安全を第一に声かけや見守りなどをしながら、楽しく入浴できるように支援しています。	
6		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで居室で休息できるように環境を整えたり、なるべく日中は起きているよう声掛けし、夜間どうしても眠れない利用者には声掛けをしホールで会話したり、お茶を飲ませ気分が落ち着くよう工夫している		
7		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の薬の効果や副作用については説明書を確認してもらい、不明な点や疑問な所は看護師が説明している。また、薬の変更時や注意点は連絡ノートで情報を共有している		
8		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのカーテンの開閉や洗濯畳み、テーブル拭きなどできる利用者に行ってもらい、誕生日会やクリスマス会、敬老会を開催し、ゲームを行ったり、歌を歌ったり、御馳走をみんなで食べたりして気分転換している		
9	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為頻回には出掛けられないが、天気の良い日には散歩希望があれば職員が付き添い散歩(近所)やドライブ(道の駅や天鷲城、岩城漁港など)に出掛けている	制限はあるものの、利用者の要望などでできるだけ外出の機会をつくり外気に触れ、気分転換にもつながっています。	
10		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者にお金を持たせることでトラブルが発生するため、本人に説明し、金庫に預かっている。買い物に出掛ける時に持たせ、残金を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室に温度計を置いて室温を管理し、冬季は施設内に加湿器を2個設置し加湿している。トイレや洗面所は1日2回清掃している。食後は短時間だが窓を開け換気している	日中多くの時間を過ごしているリビングにはソファが多くあり、気の合う同士がゆっくりと過ごせるようになっていました。また一人ひとりの座る場所も楽しく会話や食事できるように配慮されています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを2個置いており、気の合った利用者同士が会話したり、テレビを観たりしている。また、独りになりたい時はテーブルの席に座って過ごしている		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を持って来てもらい、過ごしやすい工夫をしている。また、エアコンの下が苦痛だという利用者はベッドの配置換えしている	一人ひとりの状態を考慮してベッドや家具類を配置し、安全に過ごせる環境を整えています。中には仏壇を持ち込んで遺影などを祀っている利用者もいます。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が施設で一人で動けるようトイレのスイッチを明示したり、居室に名前を付けたり、テーブルの位置がわかるよう椅子に名前を付けたりし工夫している		